



半導体技術を農業へ、笠岡から世界へ

株式会社ジェイ・イー・ティ・アグリ（笠岡ファーム：笠岡市平成町97番）
TEL：0865-63-8151/ URL：https://jetagri.co.jp/



経営概要

令和8年8月26日 現在

会社概要

創業は2020年8月、資本金4,950万円、従業員15名（うち正社員1名、障がい者1名）。半導体製造装置メーカー「株式会社ジェイ・イー・ティ」のグループ会社として、アグリ事業を担う。代表取締役社長は平井洋行氏。

事業内容

高糖度ミニトマトのオリジナルブランド「トマピカル」の生産・販売と加工品の開発。

農業参入の経緯

半導体製造装置事業に加え、安定した新規事業を模索する中、2019年に農業展示会で高糖度トマトと出会う。試食時の衝撃的なおいしさと差別化の可能性に魅力を感じ、自ら栽培・販売する農業への参入を決意。笠岡市から現在地を借り受け、2020年に農業部門を別会社化し、笠岡ファームを設立。太陽光利用型環境制御ハウスを整備し、施設園芸（高糖度ミニトマト生産）を開始。



取組内容

施設の概要

敷地約2haに、5連棟ハウス2棟（栽培面積計4,320㎡）と選果・商品化を行う選果棟を整備。パッドアンドファン、ヒートポンプ等を備え、温度、灌水、施肥などの栽培環境をきめ細かく管理。

栽培・品質管理の工夫

花数を調整し、1花房当たりの果実をおおむね8果に絞ることで、株への負担を抑えながら品質を向上。樹上で真っ赤になるまで完熟させ、一粒ずつ外観と糖度を確認し、注文内容に応じて選別・出荷。専用培地、液肥、環境制御を組み合わせ、長期間安定して収穫できる栽培を実践。

環境負荷低減の取組

ハウスの密閉性を高め、農業は予防的に散布せず、病虫害発生時に必要最小限を使用。有機肥料・専用培地を活用し、温度、灌水等の環境制御により、株を弱らせず高糖度を安定化。規格外果等を冷凍し「トマピカルネクター」の原料に活用することで、食品ロスの低減にも取り組む。

笠岡ファームが目指すトマト

濃厚な甘みと深い旨み、滑らかな食感を備えた「日本一の品質」を目指す。見た目・味・品質を兼ね備え、特別な贈り物にも選ばれるプレミアムな岡山産ミニトマトを追求。



今後の展望

- ◆「トマピカル」の認知度を高め、価値を認める顧客との接点を広げ、国内外での販路拡大を目指す。
- ◆生鮮ミニトマトに加え、トマトネクター（果実飲料）など加工品・贈答品の展開を進め、通年でのブランド価値を一層高める。
- ◆スマート農業と高品質生産を基盤に、雇用と笠岡湾干拓地のPRに貢献し、岡山を代表するブランドを目指す。



日本一を目指し各賞受賞



高糖度ミニトマトの選別



トマピカル（手前）＆トマトネクター（奥）